

おく だ まさ か
奥田正香



奥田正香 (1847 ~ 1921)

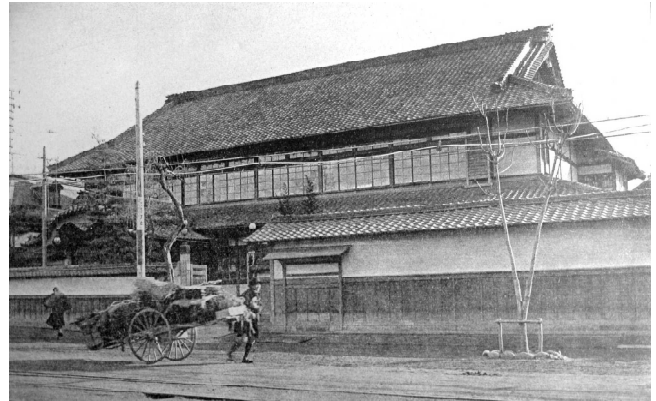
出典：『社史東邦瓦斯株式会社』

奥田正香は明治期の名古屋を代表する実業家である。味噌・醤油製造で財をなし、新規事業を次々に創設して、名古屋の渋沢栄一といわれた。また、名古屋商業会議所の会頭を20年間務め、名古屋の商工業の発展に尽くした。1913(大正2)年10月、政財界を揺るがせた稲永事件に関連して実業界を引退した。

■実業家への基盤は味噌・醤油業と奥田新田開発

奥田正香は1847(弘化4)年3月、尾張国春日井郡鍋屋上野村(現名古屋市千種区)に生まれた。後に尾張藩士奥田主馬しゅまに引き取られた。幼少時より学問を好み、維新の際は尾張藩勤王派丹羽賢に従って国事に奔走し、その功により賞典禄90石を賜った。1870(明治3)年愛知県史生、翌1871年三重県権大属、1872年に上京して司法省に入ったが、辞して帰郷した。官吏を辞した奥田は、名古屋で味噌・溜醤油の製造を始めた。奥田が開業した店は繁盛し、1890(明治23)年には、醤油については名古屋で第4位の生産高をもつ業者となっていた。1836(明治7)年から幡豆郡小栗新田地先の海岸埋立事業(奥田新田)に着手し、140余町歩の開墾をなし遂げた。1880(明治13)年10月に県議員、翌1881年2月には名古屋区議員に当選、各々の議長も務めた。

奥田が開業した店は繁盛し、1890(明治

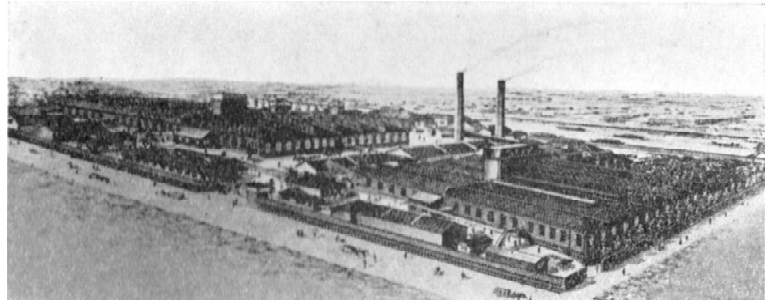


名古屋商工会議所

出典：『愛知県写真帖』

■時代の変化を読み取り、新規事業を開拓

奥田正香は、その後実業界に進出し、1887(明治20)年6月には尾張紡績を創設して社長となり、1893年7月に名古屋商業会議所会頭、同12月に名古屋株式取引所理事長に就任した。日清戦争後1896年7月には日本車輛製造を設立して社長となり、同8月には名古屋3大銀行の1つ、明治銀行を創設して頭取に就任した。日露戦後に事業熱が高まると、1906年に名古屋電力・名古屋瓦斯を創設、愛知・三重両県下の紡績会社を合同して三重紡績を創設(1905年10月)し、1907年1月同社社長に就任、1912(大正元)年には朝鮮開発の目的を以て朝鮮起業(株)を創設し社長となった。また、愛知県知事深野一三、名古屋市長加藤重三郎と親密な関係(三角同盟)を築き、奥田の息のかからぬ事業は名古屋では成り立たないといわれた。



東洋紡績尾張工場

出典：『東洋紡績七十年史』



日本車輛熱田工場

出典：『驀進』日本車輛製造株式会社

奥田は、事業を創設して利益を得るのに熱心で育てることに意を注がないなどと批判する人もいたが、時代の変化を読み取り、新規事業を次々立ち上げ、名古屋に欠けていた外部資本の導入や外部の人材登用など、名古屋の経済・産業の発展に貢献し、1911(明治44)年藍綬褒章受章している。1921(大正10)年1月、74歳で逝去。

(浅野伸一)